



広瀬研だより ちょっとトリビアな無脊椎動物の話

Text = Rie Nakano

Photo = Rie Nakano & Kaoru Imagawa

第28回 学名と和名1 学名があつて 和名が ないときは？

ま ずおわびから。先々月号(4月号)でご紹介した群体性ヒドロ虫の1種、ミナミエダウミヒドラは「同じ遺伝子を持つ個虫に形と機能の分担が見られる」と書きましたが、このヒドロ虫の個虫は1タイプしかありません。お詫びして訂正いたします。

最後にミソをつけてしまいました。無脊椎動物の増え方シリーズは先月で終了。今回と次回が学名&和名について。

私 が愛してやまないウミウシは種類が多く、日本近海だけで1,200種以上いるのではないかと考えられている。それらの中で本州でよく見られるとされているのが「アオウミウシ」「シロウミウシ」「サラサウミウシ」「コモンウミウシ」の4種類。いずれも覚えやすく、名前を聞いて色や模様がすぐ想像できる和名だ。

でも、和名を聞いてそのウミウシのことを思い浮かべられるのは日本人だけだ。

日本全国で通用する和名のことを標準和名といい、特定の地方だけで流通している名前を地方名とか方言名という。いづれにしても世界の一部の地域でしか通用しないローカルネーム。英語圏の国に行けば英語の名前=英名 Common Nameが用いられているが、英名もやはりローカルネーム



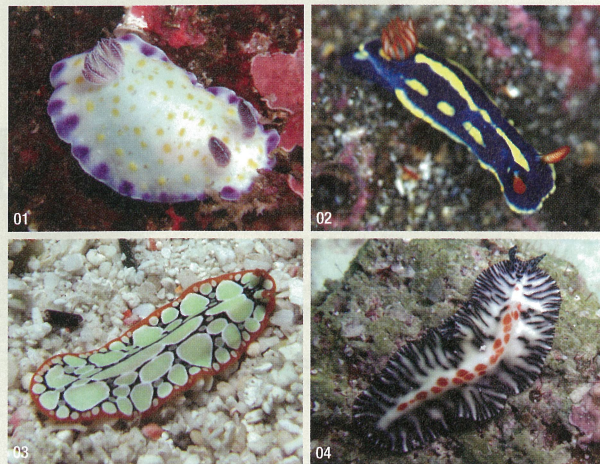
05

文=中野 理枝

Profile>> 87年OW取得。'96年頃ウミウシに開眼。'04年「沖縄のウミウシ」を編集、同年「本州のウミウシ」を編集・執筆。現在は琉球大学大学院 理工学研究科 博士後期課程3年次。沖縄暮らしも5年目に突入。これを書いているのは4月上旬。ソメイヨシノの開花をもう5年も見えていないことに気がついてビックリしている。
->hofukutei.exblog.jp

監修=広瀬裕一
琉球大学理学部海洋自然科学科教授・理学博士

Profile>> '91年理学博士取得。その後3つの大学を転々として、'97年より琉球大学に勤務。和名と学名は1対1の対応になっていないことも多いので、なるべく学名を使うこととお勧めしたい。貴重な観察や発見が和名でしか記録されなかったことで、科学に貢献できないこともある。
->www.geocities.jp/the_tunicata/page3/page3.html



(01) コモンウミウシ。(02) アオウミウシ。学名は *Hypselodoris festiva* (Adams, 1861)。記載者と記載年が丸カッコでくくられている。このカッコは「Adamさんが1861年にこのウミウシを記載したときの属名は、今の属名 *Hypselodoris* とは違っていました」という意味だ。(03) *Pseudoceros scintillatus*には和名がない。そこで学名をカタカナ表記する。しかしラテン語を現在話す人類はほとんどいないため、学名をアメリカ人は英語読み、フランス人はフランス語読みする人が多い。ラテン語読みの「ペセルドケロス・スキントイラトウスか、それとも英語読みのシュードセロス・サインティラータスか? 相手に通じればどう読んでもいいと思うが。(04) *Maritigrella virgulata*。マルチグレッラ・ヴィルグラタか、それともマーティグレラ・ヴァーグラータか?(05) フジナミウミウシ *Chromodoris fidelis* (Kelaart, 1858) これもカッコつき。写真 01, 02, 04, 05=中野理枝 03=今川 都 (OCEAN BLUE)

だ。一方、それぞれの生物には世界共通で唯一無二の名前がつけられている。それが学名 Scientific Name だ。

学名はラテン語で、生物の種名前を属名と種小名の2語で表す。二命名法というこのルールはリンネによって18世紀後半に考え出された。これをコモンウミウシの例で見てみよう。

属名	種小名	記載者	記載年
<i>Chromodoris</i>	<i>aureopurpurea</i>	Collingwood,	1881
種名			

正確にはこれ全部で種名

これは「*Chromodoris* 属の *aureopurpurea* という種小名の動物で、Collingwood という人が1881年にこの種名を新種として記載(命名)しました」という意味だ。その文献で何度も同じ属名が登場する場合は、2回目以降は属の頭文字とピリオドのみで属名が表記されることもある。*Chromodoris aureopurpurea* の場合は *C. aureopurpurea* となる。

動物の中には学名がつけられていない種はたくさんいるが、学名があつても和名がない種もたくさんいる。日本人になじみのない動物、日本人研究者のいない動物には和名がついていないことが多い。その動物を研究している日本人研究者がいても、一般になじみのない動物なら「研究者どうしな

ら学名で話を通じるので、特に和名など必要ない」と考える人もいる。学名と和名は同時につける必要はないので、日本人研究者であっても学名命名の際に和名をつけない人も多い。

マ イナーな動物の場合、学名だけがあつても和名がなくても、今までは特に誰も困らなかった。しかし最近はずクバ器材と撮影機材が普及したため、研究者ではない人がスクーバダイビングで、今までほとんど見向きもされなかった海底の動物たちを観察・撮影するようになった。そして名前を調べて途方に暮れる。

「この動物、カタカナの名前(注:学名のこと)はあるみたいだけど、日本語でなんと呼ばばいいのだろう?」

さて困った。学名があつても和名がない動物。どう呼んだらいいのだろう?

その答えのひとつが学名をラテン語読みすることだ。ラテン語を話す人類は現在ほとんどいないが、平嶋義宏博士の『生物学名命名法辞典』によると「学名はローマ字読みでよい」。実際に多くの動物はローマ字読みしたものカタカナ表記で流通している。

学名について詳しく知りたい人には以下の本をお薦めします。
動物命名法国際審議会2000国際動物命名規約 第4版 日本語版 (www.soc.nii.ac.jp/ujsb/iczn/pdf/iczn4_jp_.pdf からダウンロード可)
松浦啓一 2009 動物分類学 東京大学出版会
ウィンストン馬渡俊輔・柁原宏記 2008 種を記載する一生物学者のための実際的な分類手順。新井書院

動物につく学名は命名規約上必ず1つでなくてはならないのだが、2つの学名がつけられてしまうことがある。既にその動物に学名がついていることを知らずに、新たに学名をつけてしまったときなどだ。これを同物異名(シノニム)という。学名には先取権といって、先につけられた学名が有効となるルールがあるので、後からつけられた学名は新参(ジュニア)シノニムとよばれ無効となる。*Hexabranchius sanguineus* (Rüppell & Leuckart, 1828) は他に *H. marginatus*, *H. adamsii*, *H. orbicularis*, *Doris imperialis* など20以上のシノニムがある。学名はなんであれ、和名はミカドウミウシ。写真=中野理枝

